

(別紙 7)

愛媛県におけるジビエ利用拡大を考慮した狩猟者の育成に係る評価報告

1 狩猟者の現状や課題等

近年、県内におけるニホンジカやイノシシの鳥獣害被害が深刻化する中、県内の狩猟者については、年齢別にみると、60歳以上が令和5年度には6割以上を占め、高齢化が著しく進んでいる。継続的な捕獲のためにも、効果的かつ適正な捕獲を担う狩猟者の育成・確保が喫緊の課題となっている。

2 1の課題等に対応するため、本事業で実施した取組内容

・新規狩猟者フォローアップ研修として、県内のわな免許取得5年以内の方を対象に、捕獲技術から捕獲個体の解体・ジビエ利用までの幅広い知識・技術の習得を目的とした講習会と実践的な現地実習を実施し、狩猟者の育成を図った。

<取組内容詳細>

日時：令和6年1月20日（土）～令和6年1月21日（日）

場所：丹原文化会館（西条市）

令和5年度実施研修参加者：31名

研修内容：

日時	講習・実習内容	場所
1日目 9：30～15：45	・くくりわな、箱わなによる捕獲技術の基本 ・くくりわな作成実習 ・くくりわな設置実習	丹原文化会館 (西条市丹原町) 及びその周辺の山林
2日目 9：00～15：00	・設置したわなの見回り ・設置わなの評価・意見交換 ・保定止め刺しについて ・自家消費のための解体手順と注意点	

注：実施した研修会等の内容及び参加人数等を記入すること。

3 2の取組に対する評価と今後の課題等

- ・研修後のアンケートでは、今後の捕獲活動に役立つと思うかとの問いに、9割以上が「役立つ」と回答し、高い満足度が確認された。
- ・参加者は開催地周辺の方を想定していたが、県内各地から想定を上回る応募があり、捕獲技術の向上を目指したいというニーズを改めて確認できた。
- ・課題としては、研修中に解体可能なイノシシ等を捕獲できなかったため、解体関係の実技ができず、動画による学習になった。解体方法の実地的な学習は、参加者が狩猟活動を継続していく上で身につけるべき技術であり、自然資源の持続的利用を図るためにも重要であるため、来年度以降では、事前に捕獲された個体を用意する等、解体も含め、より実践的な実習としたい。

注：1の課題等も踏まえ、取組の評価を具体的に記入すること。

また、評価を通じ明らかになった今後の課題等についても記入すること。

4 その他

注：特記すべき事項があれば記入すること。